

雌阿寒岳

1 概況

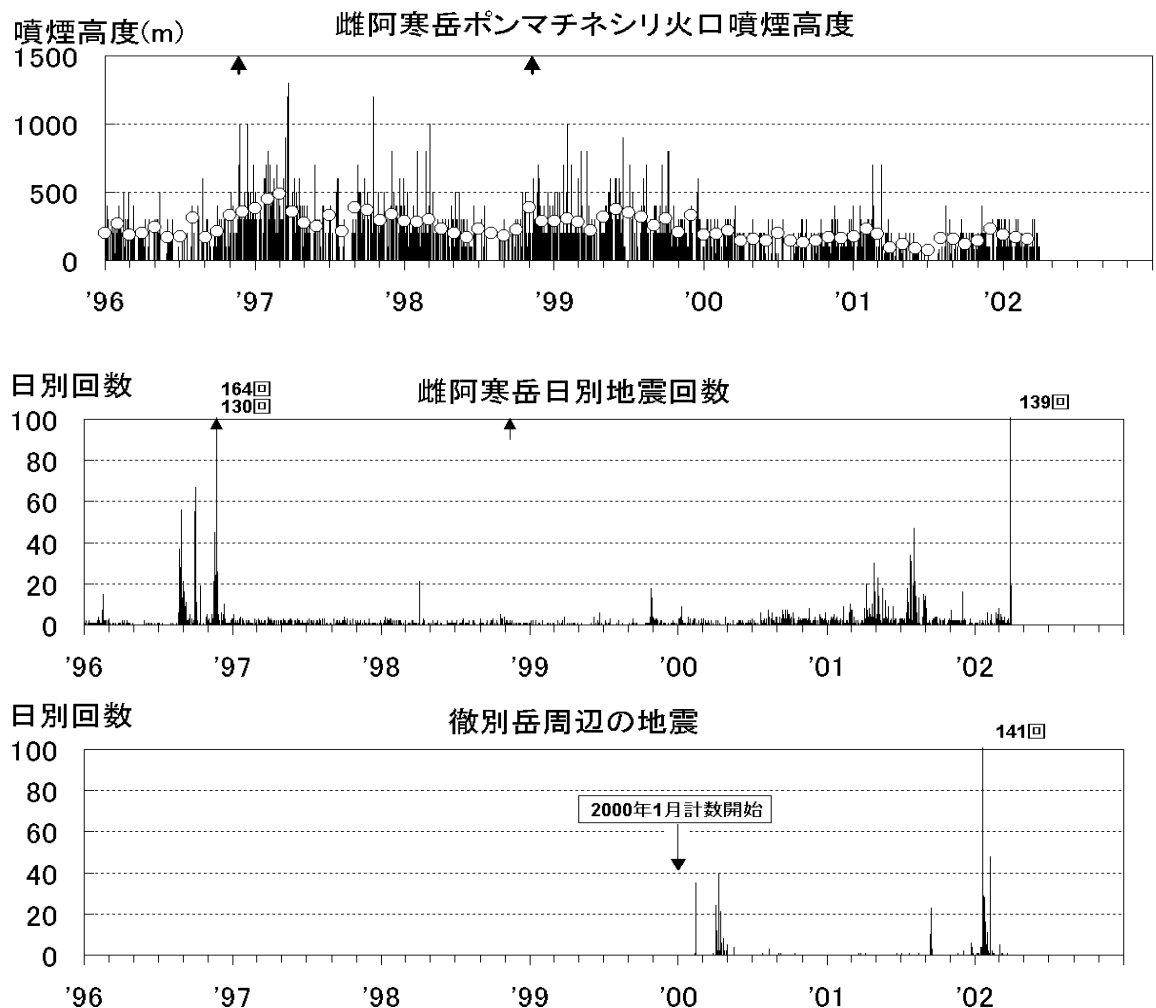
3 月 29 日 08 時 03 分頃に継続時間約 3 分の火山性微動が発生し、その直後から火山性地震が一時的に増加しましたが、噴煙活動や地殻変動には特別な変化はありませんでした。微動の発生は、1998 年 11 月 9 日の小噴火時以来のことです。

2 地震活動の状況

29 日 08 時 03 分頃に継続時間約 3 分の火山性微動（最大振幅は 0.5 マイクロメートル）が発生しました。

微動の直後から火山性地震が一時的に増加し、29 日の日回数は 139 回となりましたが、30 日には 19 回に減少しました。これ以外は 1 日あたり 0~7 回で推移しました。微動の発生は 1998 年 11 月 9 日の小噴火時以来、山体を震源とする火山性地震の回数が 1 日 100 回を越えたのは 1996 年 11 月 22 日以来のことです。

今年 1 月から 2 月にかけて、雌阿寒岳の南約 5km（徹別岳周辺）で活発化した地震活動はほぼ収まりました。



雌阿寒岳火山活動経過図（1996 年 1 月 1 日～2002 年 3 月 31 日）↑印は噴火

徹別岳周辺の地震は、従来雌阿寒岳の火山性地震として扱ってきましたが、2000 年以降については区別することとしました

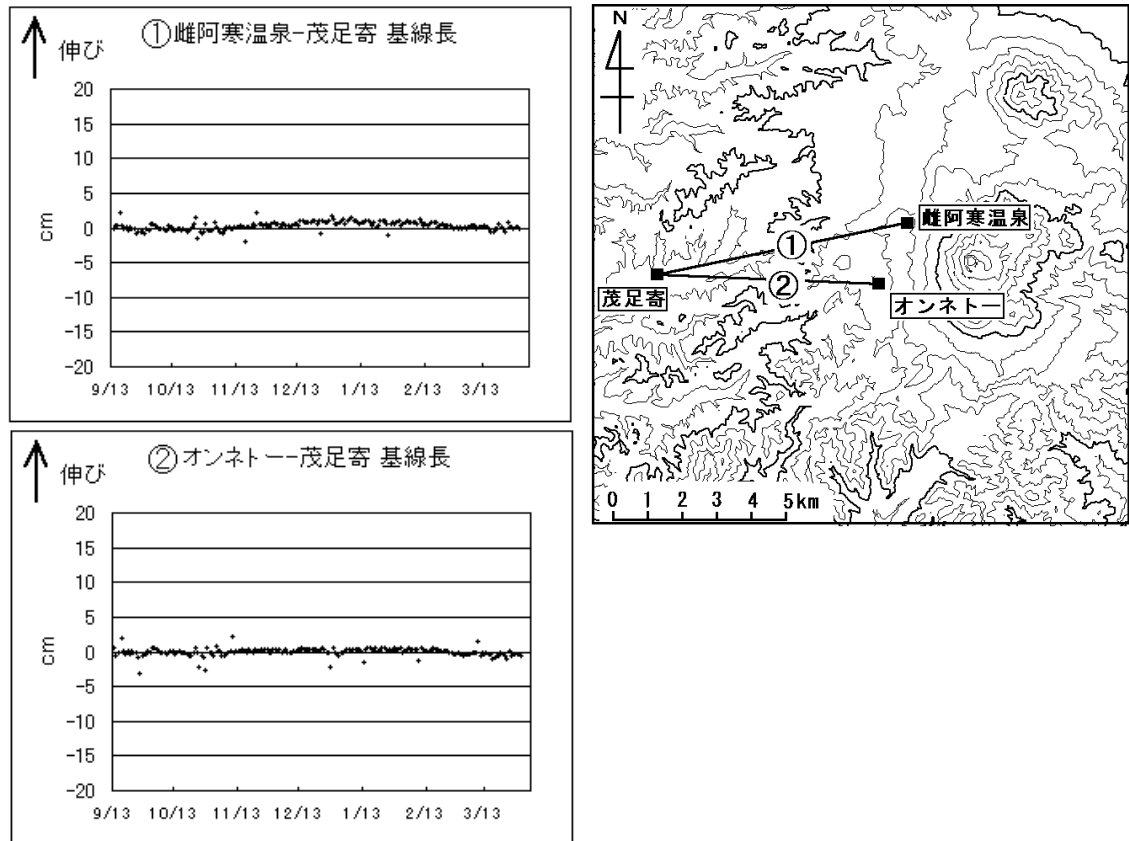
噴煙高度は日最大値、○印は日最大噴煙高度の月平均

3 噴煙活動の状況

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙は火口上 100~300m で推移し、その他の火口についても特別な変化はありませんでした。

4 地殻変動の状況

G P S 観測では、火山活動に起因すると考えられる特別な変化はありませんでした。



雌阿寒岳基線長グラフ（2001年9月13日～2002年3月31日）

月別地震・微動回数

平成 13～14 年		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
B 点	地震	197	144	59	>181	242	53	29	56	18	21	39	204
	微動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

B 点：雌阿寒岳の西南西約 2.6km 計数基準：最大振幅 0.05 μ m 以上

雌阿寒岳の南約 5km（徹別岳周辺）に発生した地震は表の回数に含みません

> 記号は欠測が含まれることを示します